

2019年度一般入学試験問題

小論文

【注意事項】

1. この問題冊子には答案用紙が挟み込まれています。試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. 試験開始後、問題冊子と答案用紙の受験番号欄に受験番号を記入してください。
3. 問題冊子には問題が1～3ページに記載されています。落丁、乱丁および印刷不鮮明な箇所があれば、手をあげて監督者に知らせください。
4. 答案には、必ず鉛筆（黒「HB」「B」程度）またはシャープペンシル（黒「HB」「B」程度）を使用してください。
5. 解答は答案用紙の指定された場所に記入してください。ただし、解答に関係のないことが書かれた答案は無効にすることがあります。
6. 問題冊子の余白は下書きに使用しても構いません。
7. 問題冊子および答案用紙はどのページも切り離してはいけません。
8. 問題冊子および答案用紙を持ち帰ってはいけません。

受験番号	
------	--

課題 以下の文章を読んで設問に答えなさい。

生物はエネルギーを使って時間をつくり出しており、そして現代人もエネルギーを使って車やコンピュータを動かして時間をつくり出していると前章で述べました。新幹線を使えば東京から二時間ちょっとで京都に着けますが、^{とうかいどう}東海道を二週間もかかって歩いたことを思えば、その日数日の自由に使える時間がつくり出されたと言えるでしょう。

ここで問題にしたいのは、同じ東海道を移動している時間でも、新幹線に乗っている時間と、足で街道を歩いている時間とでは、速さのみならず質が違うところです。新幹線の中の時間は、移動とほとんど関係がありません。眠っていても着いてしまいます。足で歩く方はそうはいきません。自分でエネルギーを使って足を動かさねばならないのです。時間はかかりますが、歩きながら出会う出来事は、すべてが身をもって体験するものとなります。えんえんと富士の裾野^{ふじすその}を歩き続ければ、いやでも富士の偉大さを感じさせられるでしょう。

現代人は大量のエネルギーを機械に注ぎ込んで時間を生み出し、そうしてできた時間でまた機械を動かして別のことを行っています。その連続で日常生活ができあがっているのではないのでしょうか。食事中もテレビがついており、歩いている間もイヤホンをして、機械と接していないのは睡眠中だけ。いろいろと忙しく立ち働いているのですが、その間、実際に働いているのは機械であって、自然や他者とまともに向き合っているのは機械であり、人間はそれを操作しているだけかもしれません。

これでは、働きかける目標や、働く目的とじかに向き合うことがありませんから、働くことを通しての体験は得にくいでしょう。機械操作の連続で成り立つ時間は、みかけはたくさん^①の事を仕遂げたように見えても、すべてがうわすべりで空虚で内実のない時間なのかもしれません。機械のつくり出した時間もまた、^②バーチャルで存在感のない時間だと言えそうな気がします。

検索エンジンを使えば知りたいことがすぐに出てきて効率はいいでしょう。しかしこれでは本物の知識は身につけません。時間をかけ、自ら思いついた疑問を解決しつつ、自力でじっくりと問題と付き合うから深い理解が得られるのですし、そうして身につけたものが、真に自分の血となり肉となり、^③生きる力になります。また時間をかけて付き合った対象は、大切にしたくなるものです。自らのエネルギーを注ぎ込み全身全霊をあげて取り組んだ時間が、真に自分にとって意味のある時間となるのだと思います。

以前の章で述べた言い方をすれば、そういう時間をかけて付き合ったものが<私>の一部になるのです。教育とは<私>を広げていくことです。

昔は土と向き合い、獣と向き合い、これにほとんどの時間を費やして、なんとか食物を得ていました。それが生きるという営為の内容だったのです。今でも食べなければ生きていけないのは確かですが、食物入手のための労働は機械の陰に隠れてしまい、表立っては見えにくくなっています。

生きていくためにもっとも大切なことを、経験することも垣間見ることもしにくい世の中になってしまいました。生きていく基本を身につけさせるのが教育だとすれば、ふだんは機械に肩代わりさせていることでも、きちんと自分でできるように体験させなければいけないでしょう。そうでなければ文科省の言う「生きる力」はつきません。機械で効率化をはかったのでは教育はできません。

そもそも教育とは効率の悪いものです。よい社会人として生きていく上での習慣を身につけさせるのが教育の大きな目的ですが、習慣を身につけさせるには時間がかかります。繰り返し行うことにより、体に覚えさせねばなりません。機械には頼れません。

このご時世だから機械の操作方法を教える必要があるのは確かですが、そればかりでは困ります。文部省に頼まれて、理科離れを止めるにはどうしたらいいのかを考える会の委員になったことがあります。びかびかの機械を子どもたちにさわらせようとか、学校に人数分コンピュータを入れようとか、機械漬けにする話ばかりが出てきました。しかし機械のオペレーターを教育するのが理科教育ではないはずで。

もちろん、機械にまかせられるようになったおかげで、われわれの生活にこれだけ潤沢な余暇が生まれてきたのは確かです。昔だったら貴族のみに許された閑暇(スコレー)を、すべての人が享受できるようになりました。寺小屋で教育はお終いという時代から、ほぼ全員が小中高と学校(スクール)で学べるようになったのも、また私のような生産に与らない学者(スカラー)が存在できるのも、このスコレーのおかげです。暇だから学問ができます。学問をするにはゆったりとした時間が必要なのです。学びもそうです。

学問は息の長い論理を追求しなければいけないものですから、論理的思考ができる子どもに育てたかったら、長い論理の連鎖を追いかけていけるよう、じっくりと理論と向き合えるように訓練しなければなりません。

本川達雄:「人間にとって寿命とはなにか」(2016年発刊)より改変引用

設問 1. 下線 ① うわすべりで空虚で内実のない時間と反対の意味で使われている箇所を本文中より 28 文字で抜き出さない。

設問 2. 下線 ② バーチャルで存在感のない時間の具体例を本文中の言葉を用いて、内容的に異なるものを 3 つ列挙さない。

設問 3. 機械が現代人にもたらした現状について、長所と短所を含めて 80 字以内で述べなさい。

設問 4. 著者の考える下線③生きる力を身につけるためには、今後、あなたはどのような生き方をしていく必要があると考えますか。自分のこれまでの生き方についても言及し、600 字以内で述べなさい。

Windom